

作成日 平成 30 年 12 月 18 日

平成 30 年 JSCA 九州ブロック研修会
「瀬戸内海を流れる潮流の中でシーカヤクトレーニング」 報告書

主管：有限会社カヌースクール九州

開催日：平成 30 年 12 月 2 日（日）～3 日（月）

会場：愛媛県伯方島 舟折瀬戸、能島、鵜島周辺

講師：中村昭彦

（一滴 Paddle & Mountain Guide）

サブスタッフ：阪井雄司・嘉藤暖博・末永直樹

参加者数：一般会員 13 名 準会員 2 名

一般参加 2 名 合計 17 名



■研修会 5 つのゴール

1. 潮流を使ったボートコントロール技術の習得
2. 潮流を使ったナビゲーション技術の習得
3. 実践的なレスキュー技術トレーニング
4. 潮汐と潮流の関係を知り、フィールドの変化を予見する
5. 会員相互の親睦を図る

■12 月 2 日（日）

天候：晴

潮汐：長潮 満潮：6：48 干潮：13：03（有津港）

※このフィールドは有津港（来島海峡）の満潮、干潮時に転流する



◇実施内容 I

参加者全員が定刻通り、伯方島 CS パークに集合し、出廷準備を整えた。出発前に、潮流・潮汐についての講義を阪井氏より、また流れに関わるボートコントロールの講義を中村氏が行った。2 日間の研修の中で体験する海象の知識や、ボートコントロール方法を全員で確認し、研修をスタートした。

○研修内容のふりかえり

当日の舟折瀬戸潮汐に関わる海象変化を確認しながら、潮流について「50:90の法則」また、潮位に関わる「12段の法則」を講義し、6時間ごとに変化する潮流や潮汐について基本的な知識を確認した。また、潮流と地形が作り出すカレント・エディ・エディラインの存在。また、そこでのポートコントロール方法を考察することで、今回の研修における各参加者の課題やゴールを再確認することができた。



◇実施内容Ⅱ

舟折瀬戸へ移動し上陸。3グループにわかれ、幅300M余りの水道を「真向いの対岸」へフェリーグライドする与件を与える。各グループで3つの方法を考え、実際に自分たちが選んだ方法を使い水道をフェリーグライドした。その後上陸し、3グループの振り返りを通して、全員で最も安全で早く、簡単な方法は何かを話し合った。

○研修内容のふりかえり

水道の潮流は、最強流（4ノット）をすぎたあたりから、水道の横断を開始した。

3グループともに、様々な横断方法を考え実践した。

1. 一旦、上流に向けてエディを漕ぎあがり

①本流へ、流されながらフォワードストローク→対岸→エディを漕ぎあがり目標地点にたどり着く

②対岸にフェリーグライドする。45度のアングルを保ちながら、本流をすぎたあたりから目的地へフォワードストロークでたどり着く。

2. スタート地点から直線的に対岸の目的地を狙うコースをとる。

① すべて45度のフェリーアングルをキープして、対岸を目指す

② 本流の流速が上がる範囲は、フェリーアングルを保ちながらやり過ごし、そこからフォワードストロークのみで、目的地へ直線的に進む。

③対岸の目的地へ直線的なイメージでフォワードストロークのみで進む。当然、下流に流されるが、修正なしで直線的にコースをとり進む。対岸のエディにはいったら、そこから目的地へ漕ぎあがる。

3. 一旦、エディを使って下流に下り

- ① カヤックの角度をキープして、対岸へフェリーグライドし、本流をすぎてから、目的地へフォワードストロークで漕ぎあがり到達する。
- ② フォワード→フェリーグライド（角度キープ）→本流やり過ごし、フォワードで、対岸のエディに入り、そこから漕ぎ上る。

以上の方法を試しながら、各グループは水道を横断した。しかし、カレントやエディボイル、エディラインが、時間の経過とともに変化する海象特有のフィールド変化を前に、各チームとも、当初考えたコースをうまくたどれない。振り返りの時、このことが大きなヒントとなった。

シーカヤックで、このような水道を横断する場合は

- ①、流れが強烈なカレント（本流）のみ角度を保ち、残りは直線的なコースをフォワードストロークで漕ぎ抜ける。
- ②フェリーアングルをキープしてコース全体を漕ぐ場合は非常に時間がかかる。
- ③対岸のエディを予想し、エイミングオフ（意図的な外し）で目的地にたどり着くのも有効。
- ④グループの場合と個人の場合、また地形や視界、船舶の有無によって、コース取りは様々な組み合わせが可能なこと
等、様々な意見を共有することができた。



◇実施内容Ⅲ

2ノットから3ノットの本流で、各自ロールの実習、および、グループレスキュー（Tレスキュー）の実習

○研修内容のふりかえり

鵜島と能島の間は船舶の通行も少ないため、実践的なセルフレスキュー、グループレスキューを何度も練習することができた。強烈なカレントに乗った要救護者のカヤック、特にバウをつかむためのポートコントロールが難しい。強烈なボイルやエディラインの中で、相手に近づくのに時間がかかる。静水でのTレスキューとは全く違う技術やタイミングを見定める能力が必要なことを全員で理解した。

平成 30 年 12 月 3 日 (月)

天候：曇り時々雨

潮汐：若潮 満潮：8：10 干潮：14：19 (有津港)



◇実施内容 I

C S パークより出発、能島と鶴島の間のできる大きなエディを使い、漕ぎ上りを行う。

○研修のふりかえり

当日の潮流最強時間が 11 時頃と予想され、能島に到着して 1 時間後には、この日の最強潮流、50%の速さに達していた。そのため講習は、しだいに潮流が強まる中で行われ、状況が変化し、難易度が増していく。コース取りをエディの下流部から調整しながら、漕ぎあがる。少しでも角度が甘いと左右にターンしてしまう。直線的に上流に漕ぎ抜ける与件にチャレンジしながら、侵入角度を調整し、かつ保つことの重要性を体験することができた。



◇実施内容 II

能島と鯛崎島の間を流れる潮流をつかい、ボートコントロール研修を実施
11 時～13 時の間、エディキャッチ・ピールアウト・フェリーグライドの研修をおこなった。

○研修のふりかえり

研修は、潮流最強時間からスタートした。対岸のエディへ各グループ 5 人が往復し、初日のスタート前講習で確認したエディやボイル、カレントの中でのボートコントロール方法を

実践する。ピールアウトの入水角度やエディキャッチ直前のエディラインを超えるための角度、エディラインにとどまらないようにするための適切なフォワードストローク、リーニング等が各人の課題となった。

□ 2日間の研修を通じて

J S C A九州ブロック研修と銘打っての開催であったが、連続して開催される応用実技検定のトレーニングとして、また資格既得者の研修として、今回は17名の参加者を迎えることができた。

潮流やタイダルレースでのボートコントロール技術や知識は、西日本の海を漕ぐ場合は必要不可欠であり、今回の潮流フィールドの研修を通じて会員のレベルアップが図られたと思う。特にJ S C Aで長年にわたり蓄積してきたリバーカヤックの技術や知見が、今回の研修の中で十分に反映されたことも成果としてあげておきたい

遠く全国から参加いただいた会員の皆様、また中村講師、サブ講師の皆様へ 2日間の研修が無事、終了したことを心から感謝いたします。ありがとうございました。

以上